

2022年11月9日
日本船主協会 海事人材部

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

この度、その一環として2022年11月5日(土)に開催された、荒川区立第三中学校(東京都)の校内ハローワークに協力しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在学生徒にその職業について紹介するという取り組みであり、今年で17回目を迎えました。生徒が様々な職業の魅力や苦勞、やりがいを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深め、卒業後の進路や生き方について考えることを狙いとしています。当協会には2011年度より招請があり、今回で12回目の講師派遣となりました。

今年度は11月5日(土)に開催され、「船乗り」として川崎汽船株式会社から富高 真奈美 一等航海士、豊島 郁朗 一等機関士 の2名が講話を行いました。船乗りの他、アナウンサー、落語家、漫画家、消防士、裁判官など多種多様な32職種の講師が招かれ、1～3年生の全校生徒がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計45名の生徒が参加し、海運が社会に果たしている役割や重要性、船の大きさ、船上での仕事内容、海技者への進路などについて、船内外の写真や動画を交えた説明を熱心に聞いていました。また、そのスケールの大きさに非常に驚いている様子でした。

さらに、「仕事をする上で目標にしていることは何か」、「船乗りに向いているのはどのような人か」、「船で一番楽しいことは何か」、「船乗りになるにはどういった努力が必要か」など、各講座とも時間いっぱいまで様々な質問があり、生徒に海運業界や海技者の仕事の魅力が伝わった様子でした。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後もこうした若年層へのキャリア教育の場に積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めてまいります。



講師の豊島一等機関士（左）、
富高一等航海士（右）



機関士の仕事内容について説明する
豊島一等機関士



写真を見せながら船の種類について
説明する富高一等航海士



講話後、講師2名へ質問をする生徒